

エアードライヤー

重要

この度は、エアードライヤーをお買い上げいただき誠にありがとうございます。
 以下の内容につきましては、交換作業着手前に必ずご確認頂きたく、宜しくお願致します。

交換作業時のご注意

【作業開始前】

■エアークリーナーの詰まりはエンジン内部に負圧を発生させ、結果、オイルミストがエアードライヤーに多く送り込まれる原因となる場合がありますので、良否確認をお願い致します。

■ナイロンチューブを取り外す際は、スパナ、ドライバー等の工具で代用せず、サイズの合った専用のリムーバーをご使用下さい。

→誤った方法で作業しますと、キズや曲がり等が付く原因になりますのでご注意下さい。(図1参照)

また、コネクターを外し、Oリングを再使用しますとエアー漏れの原因になる可能性がありますので、注意が必要です。(図2参照)

図1)

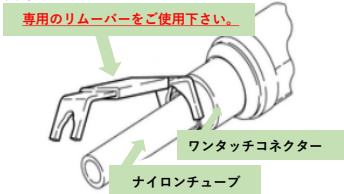


図2)



■車両から取り外したエアードライヤーからコネクター等を取り外し、付替え作業をお願いいたします。付け替えの際には、シールテープの切れ端、ほこり、砂等が内部に混入しないようにご注意下さい。→混入しますと早期故障の原因になります。

図3)

【取付準備】

■シールテープの切れ端を内部に混入させないようにご注意下さい。「シールテープの巻き方について」(図3参照)

- ①右回り(時計回り)に巻き付けて下さい。
- ②2~3回転巻き、ネジ山の先端を2山程残した位置まで巻いて下さい。
- ③ネジ山に良くなじませて下さい。

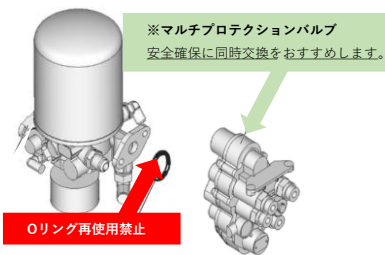
■シールテープの切れ端混入リスク低減の為、**代替品として「液体シール剤」**をおすすめいたします。



■マルチプロテクションバルブを接続する場合は、新品のOリングを使用して下さい。再使用しますと、エアー漏れの原因になります。(図3参照)

図3)

※マルチプロテクションバルブにつきましては、一部エアーシステムに故障が発生した際、必要な圧縮空気を保持する為の重要なバルブですので、**内部にオイルミストの付着等の症状が見られる場合、安全確保の為にもドライヤーと同時交換をおすすめいたします。**



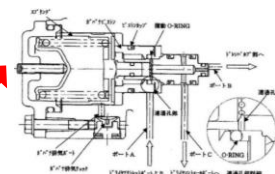
(図4参照)

【取り付け中、取り付け後の確認】

図4) MDタイプのドライヤー



■エアー漏れ確認を行った際、ガバナ調整部よりエアーが排出される場合がありますが、内部構造による特性の為、異常ではありません。**エアーの排出が3分程で止まる場合は正常です。**

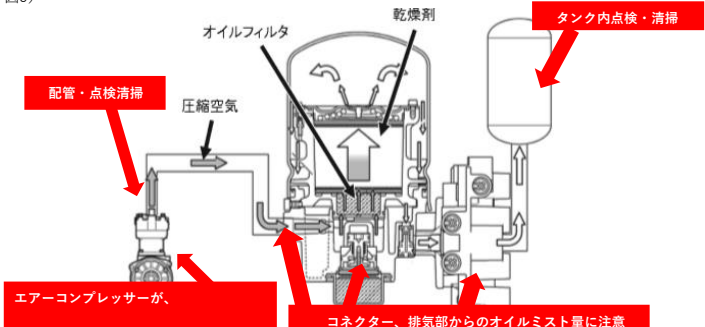


■取付後は規定値で正常にバージすることをご確認下さい。

■MD型タイプは構造上、シェルとカートリッジに隙間があり本体を揺ると「カタカタ」と音が発生することがありますが、異常ではありません。

【関連部品のメンテナンス】

■エアー配管とナイロンチューブ内の汚れを取り除いて下さい。また、エアーコンプレッサーの異常、エンジン本体の異常も考えられますので、総合的なメンテナンスと点検をお願い致します。(図5参照)



以上